

【研究名】 血中薬物濃度測定における測定精度に関する検討

【目的】

有効域（安全域）の狭い薬物に関しては、薬物血中濃度の測定が重要となります。現在、多くの測定法が臨床において使用されていますが、測定精度や感度も測定法により様々です。近年、測定法や測定機器の開発が進んでいますが、当院でも随時導入を行っています。そのような中で一部の薬物については、測定法により代謝物（体内で変換された薬物）の影響を受けることが報告されていますが、詳細に関しては明らかになっていない部分があります。そこで、本研究では測定機器の違いによる薬物の反応性や精度を検討します。

【研究意義】

代謝物が測定値に及ぼす影響を明らかにすることで、測定値の解釈や効果・副作用予測に有用となる可能性があります。

【研究内容】

薬を投与されている患者さんの血中薬物濃度測定用に採取された検体を用いますが、血中薬物濃度測定終了後の検体（残存検体）を用いて研究を行います。また、本来の測定対象薬物と同種の薬物のみ測定を行い、目的以外の測定には使いません。

【研究期間】

2012年6月～2014年5月までを予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽

薬剤師 渡邊 真一

薬剤師 田中 亮裕

薬剤師 武市 佳己

薬剤師 木村 博史

薬剤師 武智 研志

就実大学薬学部

教授 末丸 克矢

【研究成果】

カルバマゼピンやシクロスポリンでは FPIA 法と CLIA 法間の測定差が大きくなっていることが明らかとなりました。これらの成果は YAKUGAKU ZASSHI Vol. 134 (2014) No. 9 p. 949-955 に掲載されました。